

言語科学からの知見

言語をめぐる研究の一般的了解事項

Masahiro Mizutani

ヒトの言語の定義 (1)

- 言語は音声に基礎をおいた記号
- 言語は時間、空間、存在を超越する
 - 過去、遠方、非存在・矛盾存在に命名可能
- 言語は創造性を持つ
 - 造語により概念拡大、無限に生成できる文
 - 私の講義は いつも つまらない
 - 俳句は有限

$$51^{5+7+5} = 106829942260164217198710340851 \sim 10^{29}$$

Masahiro Mizutani

ヒトの言語の定義 (2)

- 言語は構造を持った記号体系
 - 要素の結びつきに一定の決まりがある
 - ○ 僕は本を読む × 僕を本を読むは
 - 文の階層構造
 - 言語構造の制約
 - 彼は彼女に花をあげた = 花を彼女に僕はあげた
 - He gave her flowers ≠ He flowers to her gave
- 言語は恣意的
 - 単語とその事柄の間には原則必然性はない
 - イヌ, dog, Hunt, chien

Masahiro Mizutani

ヒトの言語能力の理解(1)

- 解剖学的所見
 - 音声器官としての咽頭の位置が低い
 - 鼻音 + 口音
 - 言語野は90%のヒトが左脳
 - 左半球が言語や論理的思考の中枢であり、右半球が映像・音声的イメージや芸術的創造性を担うという単純な **脳機能局在観念**は通俗的神話に過ぎず **科学的根拠はない**
 - 脳の体重比説は誤り
 - ヒト1:38、雀1:34、ねずみ1:28、クジラ1:1000
- ヒトがいつ、どのように言語を獲得したかの詳細はいまだ不明（脳科学的レベルに達していない）

Masahiro Mizutani

ヒトの言語能力の理解(2)

- ヒト個体は臨界期内に母語を獲得する
 - ~1950年代までの構造言語学理解は誤りだった
 - 「周りで話されている言語状況を観察・模倣しながら整理して脳内に取り込むという」説
 - 単純模倣してるなら正しい文の区別がつかないはずだ
 - 「言い間違い」は言葉の並べ方の論理的誤りの可能性よりも格段に少ない
 - ○ 試験を頑張った × 卵を頑張った
 - 非常に幼い子供でも正誤の概念をもつ
 - ○ 僕は野山を走った × 僕はじゃんけんを走った
 - でも音意転倒(metathesis)、語音転換(Spoonerism)はカバーする
 - あきはばら ⇒あきばはら 旅の恥はかき捨て⇒旅のかきは恥捨て

Masahiro Mizutani

言語と認知系の独立(1)

言語の自律性の例証

- 特定の認知系から切り離されている人々
 - 視聴覚障害者
 - 健常者に比べて言語獲得が遅れることはない
 - 視覚障害者 (盲 blind)
 - 視覚、色彩に関する語彙も獲得
 - 聴覚障害 (聾 deaf、啞 mute)
 - 手話 (使役、命令、疑問文、条件節、理由節など表現可能)
 - 手話の法的言語性
 - 障害者基本法の改定2011年8月、国連障害者権利条約2006年12月
- 言語機能を触発ための入力 は聴覚・視覚・触覚のいずれでも同じように脳の特定部位に作用する

Masahiro Mizutani

言語と認知系の独立(2)

- 障言症(dysphasia)
 - 視聴覚能力や (知的にも) 異常がないのに、言語の能力の発達障害者の存在
 - 脳の高度機能障害
- 言語機能は正常だが、言語以外の認知能力障害者

言語能力は、他の認知能力から独立したモジュール性を示唆

Masahiro Mizutani

ヒトの言語能力の理解(3)

- 生成文法(generative grammar)
 - Noam Chomsky(1957)の「革命」理論
 - ヒトには生まれながらにして言語機能が備わっている
 - ヒトは生得的に脳内に言語を持っており「周囲の話すことば」は言語獲得の手がかりを与えるにすぎない
 - 普遍文法=原理+媒介変数 (ヒトの言語を律する)
 - θ 基準に違反するゴトバは間違いと認知する

ヒト個体の言語獲得

自分の置かれた環境に即して自分の脳内に持つ普遍文法に照らして母語を見極める過程であり、単語・音型などの周辺知識を取り入れて言語能力を獲得

Masahiro Mizutani

生成文法での言語理解

生成文法では言語能力とは、実際の言語による言語運用とを区別する

言語獲得過程は、他の認知能力（視覚・触覚・味覚、対人活動など）の獲得と平行して進行する

- 脳の言語を受け持つ機能とそれのみが生成する言語能力 (I-言語) を研究する
- 生成文法では、個体の言語獲得は他の認知体系とは独立に進行すると考え、コア部分を対象とする

I-言語 (Internal Language)

生得的言語機能を基盤として獲得された言語能力だけによって生み出される言語

現実に観察される個別言語(E-言語: External -Language)は派生的現象にすぎないし、しかも時間や習慣によって変化する。I-言語が（生成文法ノ立場に立った）言語研究の対象である

Masahiro Mizutani

一般言語の定義

- ある「言語」に属する文を全て列挙したもの
 - 一般には、（可算）無限に列挙しなければならない
- 単語の全てとその文法規則全体
 - 自然言語では、その提示自体が莫大になる
 - 人工言語なら比較的容易
 - 0と1から文字列で1が連続して2つ続かない文字列全体
 $\{0, 1, 00, 01, 10, 000, 001, 010, 100, 101, \dots\}$
- あるヒト（機械）が理解（受理）できる言葉全体



Masahiro Mizutani